

■児童・生徒の学力の状況

- 読み、書き、計算の基礎知識は定着している児童が多い。
- 文章や資料からを読み取り、文章の趣旨や問題の意図を大まかにとらえる力は向上してきている。
- 「全国学力・学習状況調査」から選択式や短答式だけでなく、記述式の正答率も平均を上回っている。
- 読み取ったことから、自分の考えを書くことはできてきたが、相手にわかりやすく伝えることには課題が見られる。
- 問題を現実社会と結びつけて考えたり、既習事項を活用して自分の考えをもつことへさらに慣れていく必要がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 考えや意見、めあての達成を自分の言葉でまとめ、表現する時間を十分に取ること。
- よく読み、必要なことを整理し、発信する手法を身に付けさせること。考えを交流する場面では、対話を通して、互いを高め合い、深い学びにつなげる工夫をすること。
- 自分でまとめた考えを友達と共有し「話してよかった、聞いてよかった」と実感できる場を設定すること。
- 自分のペースで学び方を選び（自己選択）、決め（自己決定）、調整する（自己調整）機会を意図的に設定すること。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 板橋区授業スタンダードの徹底し、毎時間の「ねらい」を明確に示し、振り返りの時間を確保する。
- 学年や教科、単元に応じたスタンダードSの展開を推進し、個別最適な学びを追求する。
- タブレット端末やICTの活用による個別最適な学びと協働的な学びの充実。デジタルツール活用による学習の深まり（入力だけで終わらず、活用・表現）を目指す。
- 国語科を中心とした校内研究「自分の思いや考えを表現する子どもの育成」を通して、授業研究の充実を図る。
- 「学力向上推進週間」「ステップアップ・タイム」「朝学習の時間」を活用し個に応じた指導の充実を図る。朝の学習時間には学習と読書を計画的に実施する。
- 学校図書館支援員の図書の時間を全学年で実施（読み聞かせ・読書指導・ビブリオバトル・調べ学習）
- 小中一貫教育に向け「しみず学びのエリア」9年間で「地域」を課題に探究する力が身に付くよう、学び方の共有・共通化を図る。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○めあて・問題・考え・まとめ・振り返りの共通のカードを使い、授業の流れを明確にする。 ○学習のまとめを自分の言葉で書けるように振り返りの時間を十分に取る。 ○学年や単元等に応じて、児童が自分に合った学習内容や方法、ペース、順序を自己選択して学ぶ場面を設定する。	○自分のペースで何度でも学習課題に取り組める場を設ける。 ○「かかわり合い」「学び合い」を意識した学習活動の工夫する。 ○自己調整型の学習を実施し教員間で共有できるようにしていく。 ○ICT担当教員とGIGAスクール支援員を中心に教員のICT活用能力向上のための研修を活性化する。	○単元配列表に総合的な学習と各教科との関わりが分かるよう明記する。各教科等で学んだことを総合的な学習の時間につなげられるようにする。 ○小中一貫教育の視点から「地域」を課題にした探究学習を行い、学びのエリア共通のテーマで学習し交流する。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○読み解く力の育成の観点から「読み解くタイム」を設定する。低学年ではMIMを実施し、スモールステップで取組むことで、確実な読みの力の習得を目指す。 ○保育園交流（低学年）の実施、スタートカリキュラム（1年）の整備、中学校見学、部活体験などを通して円滑な接続を図る。 ○しみず学びのエリアの連携主題「コミュニティを探究する～主体的に他者や社会に関わる資質・能力の育成」に向け教員・児童・生徒の交流を行う。	○道徳授業の充実、福祉教育（4年：高齢者理解、手話学習等）を通じた共生社会への理解を深める。 ○「1アップトレーニング」「なわとび週間」「持久走週間」や「ふじみ体操」の実施により、運動を日常化し体力を向上させる。 ○地域の企業と連携した、健康教育や食育 ○給食ホールを活用した交流給食 ○安全教育の推進（交通安全教育、情報モラル教育、地域と連携した防災訓練等の実施）	○誰もが学びやすい環境を整備し、ユニバーサルデザインの視点での授業づくりを目指す。 ○合理的配慮としてのICT機器の活用を充実させていく。 ○全教員での学校生活支援シートの共有を行い、児童理解に努める。 ○低学年での特別支援教室教諭による出前授業を実施し、特別支援教室理解の教育の充実を図る。 ○特別支援専門委員・学力向上専門員・学校生活支援員・スクールカウンセラーとの連携を図る。